

令和5年度東京都市町村ボッチャ大会ルール

1、1試合2エンド実施

同点の場合、タイブレイクを実施する。

2、1エンド6投（1チーム3～6人で構成。エンド毎のメンバー入れ替えは可。）

3、コートは東京都市町村ボッチャ大会特設コート（バドミントンコート約半面）

4、一人用のスローインボックスはない。

じゃんけんで勝ったほうが左右どちらかのボックスを選択する。

※左のボックス（赤ボール）を選択⇒第1エンドジャックボール

※右のボックス（青ボール）を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール

※エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。

※投球しないプレーヤーはコートの外に出ても構わない。（静かに待機し、他チームの迷惑にならないようにする）

5、タイブレイク

・ジャックボールをターゲットボックスのクロスの上に置く。

・じゃんけんをして勝った方が先攻・後攻を決める。投球ボックスは試合のままのボックスから移動しない。

・選出された一名により、1球のみ投球。ジャックボールに最も近いボールを投げたチームが勝者となる。両者が完全に等距離になった場合、2回目のタイブレイクを行う。その際は先攻・後攻は入れ替えるものとする。得点は数えず勝者のみを決定。

6、予選グループリーグの勝敗決定順

勝数 ⇒ 直接対決時の結果 ⇒ 得失点（該当チーム） ⇒ 総得点

※上記の決定順で勝敗が決まらない場合はタイブレイクを実施する。直接対決を行っていない場合は、勝数 ⇒ 得失点（該当チーム） ⇒ 総得点 とする。

7、原則、ペナルティスローは無し

投球の際に、ラインを踏む、または越えないよう、審判が促すことで反則が起きないようにする。ラインを踏む、または越えたのを確認した場合、審判は投球前に注意する。

もし、事前に反則を止められなかった場合は、ボールの配置を両チームから選出された一名ずつと確認したのち、再投球とする。

本大会は交流を目的とした大会であることから、各種反則は未然に防ぐことを優先し、ペナルティは極力与えないようにする。しかし悪質な反則を故意に繰り返したり、判定への異議を主張するなど、進行や他チームへの妨げになる恐れがある場合には、審判長と協議し、ペナルティを課す場合がある。

8、エンドのはじめに、ジャックボールが無効エリアで止まったり、コート外に出てしまった場合は、相手チームが右のボックスからジャックボールを投球して、青ボールの先攻とする。

※上記の場合においても、第2エンドは青ボールが先攻となる。

【その他の事例への対応】

①ジャックボールがコートの外に出た場合

ジャックボールはクロスの上に置く。ジャックボールに最も近いボールのチームと反対のチームの投球から再開とする。

②コートから全てのボールがなくなった場合

ジャックボールをクロスの上に置き、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。

③ジャックボールのみコートに残った場合

その状況を作り出したチームの投球で再開する。その際、投球者を変更しても構わない。

④カラーボールがジャックボールと完全に等距離になった場合

点数が同点の場合は、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。

点数が同点ではない場合は、点数の少ないチームの投球から再開とする。

9、付き添いも含め、チーム内での相談は可とする。

他チームの迷惑にならないよう静かに相談をする。この時審判は、迷惑になっていると判断したら「静かにするように」と口頭で注意をする。審判が注意しても改善されなければ、相手チームが投球の時の相談を禁止する。また、審判に点数を聞いたり、ボールの配置を確かめるためにコート内に入ることができるのはパドルが出ているチームのうち一名のみとする。パドルが出ていないチームは自分たちの番になるまでその権利はない。

10、ランプ、またマイボールの使用は可とする。

11、投球時の制限時間

円滑な大会運営を目的に、各チームの投球の制限時間を1エンドにつき3分とする。

ただし、決勝戦及び3位決定戦の制限時間は1エンドにつき5分とする。

時間は各コートの大会従事者（自治体職員）が2つのタイマーを持ち、それぞれのチームの時間を計測する。

時間は審判がパドルを出したらスタートし、投球の際にボールが指から離れたらストップする。

大会従事者は残り時間について、①残り1分、②残り30秒、③残り10秒、④制限時間いっぱい、となったらチームに呼びかける。

制限時間を使い切った場合、それ以降は審判が速やかに投球するように促すこととする。それでも速やかに投球しないなど、進行や他チームへの妨げになる恐れがある場合には、審判長と協議し、ペナルティを課す場合がある。

※その他のルールについてはボッチャの基本ルールを適用する。

※その他疑義が生じた場合は、審判長に確認する。

※各エンド終了時に両チームの代表者に得点用紙を確認してもらう。